

オープンカフェ:パブリックスペースの有効活用による 日本の新しい都市景観・賑わいの創造と公園利活への期待について

佐藤 肇
(株)コトブキ 事業開発部第一開発企画室

An open cafe:About the new Japanese city landscape due to the effective use of the public space and the creation the bustle,and the expectation of the parkuse.

Hajime Sato
KOTOBUKI CORPORATION

1. 日本における街路空間の利用の現状

ヨーロッパ文化であるオープンカフェは独特の街並み景観の演出と賑わいの創出をしてきました。ショッピングや散歩などの合間、屋外で街や人を眺めながらの一杯はウィークエンドのみならずビジネスタイムにおいても至福の時間を享受できます。しかしながら大規模商業施設の一部を除いて今まで日本でオープンカフェという文化が育って来ませんでした。その一因に道路行政の問題があげられます。

道路空間の有効利用より安全性確保が最優先となって、公の道路はあくまで車両や人の移動のための空間であり、それを阻害する要素は極力設置しないという考え方で、都市デザイナーが歩道にベンチを置くことさえ許可が下りない時期がかつてはありました。

最近この考えが変わりつつあります。積極的に歩道空間を活用することによって衰退している商店街や週末にひっそりとしがちなビジネス街に新しい街並み景観や賑わいの創出の可能性を模索しようという動きです。その試みのひとつとして日本各地で社会実験としてオープンカフェが期間限定で開催されました。

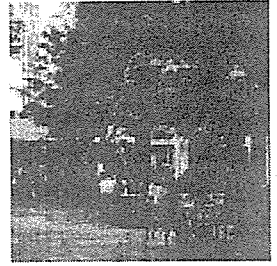
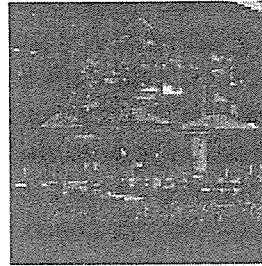
今回は弊社で参画した日本のビジネスの中心であり、近年路面展開をはかるブランドショップが進出している丸の内におけるオープンカフェの実施報告をおこないます。

さらに歩道空間から、現在、防災や介護予防など多目的化を視野に入れた公園リニューアル整備におけるにおいてもオープンカフェのようなあらたなる利活の可能性の提言を実験で入手したアンケート結果をもとにその要素についてお話させていただきます。

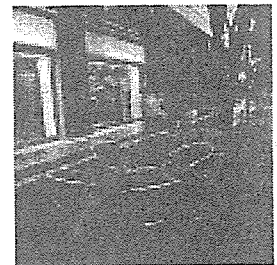
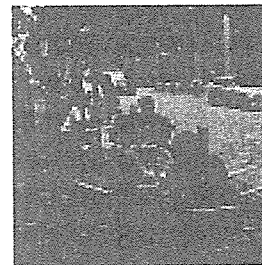
2. オープンカフェ社会実験概要

実施は去年(2004年)9月25日(土)26日(日)の二日間にわたって東京丸の内の街路やオープンスペースにテーブルチェアセットやベンチ、和風の縁台に緋毛氈を敷いたものなどを接地して利用者の定点観測を写真撮影するとともに対面でアンケ

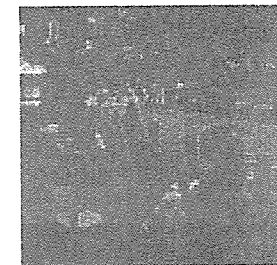
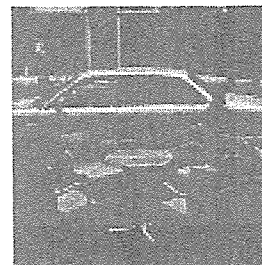
ート調査を行いました。



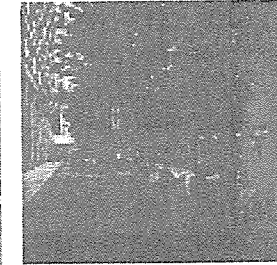
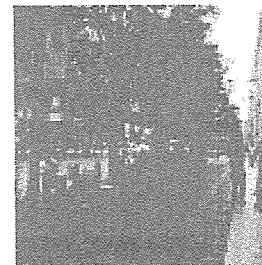
●丸ビル周辺



●文部科学省ビル前



●三菱電機ビル前



●オアゾ前

